

春日琢磨建築設計事務所  
春日 琢磨

【作品名】  
元宇品のアトリエ



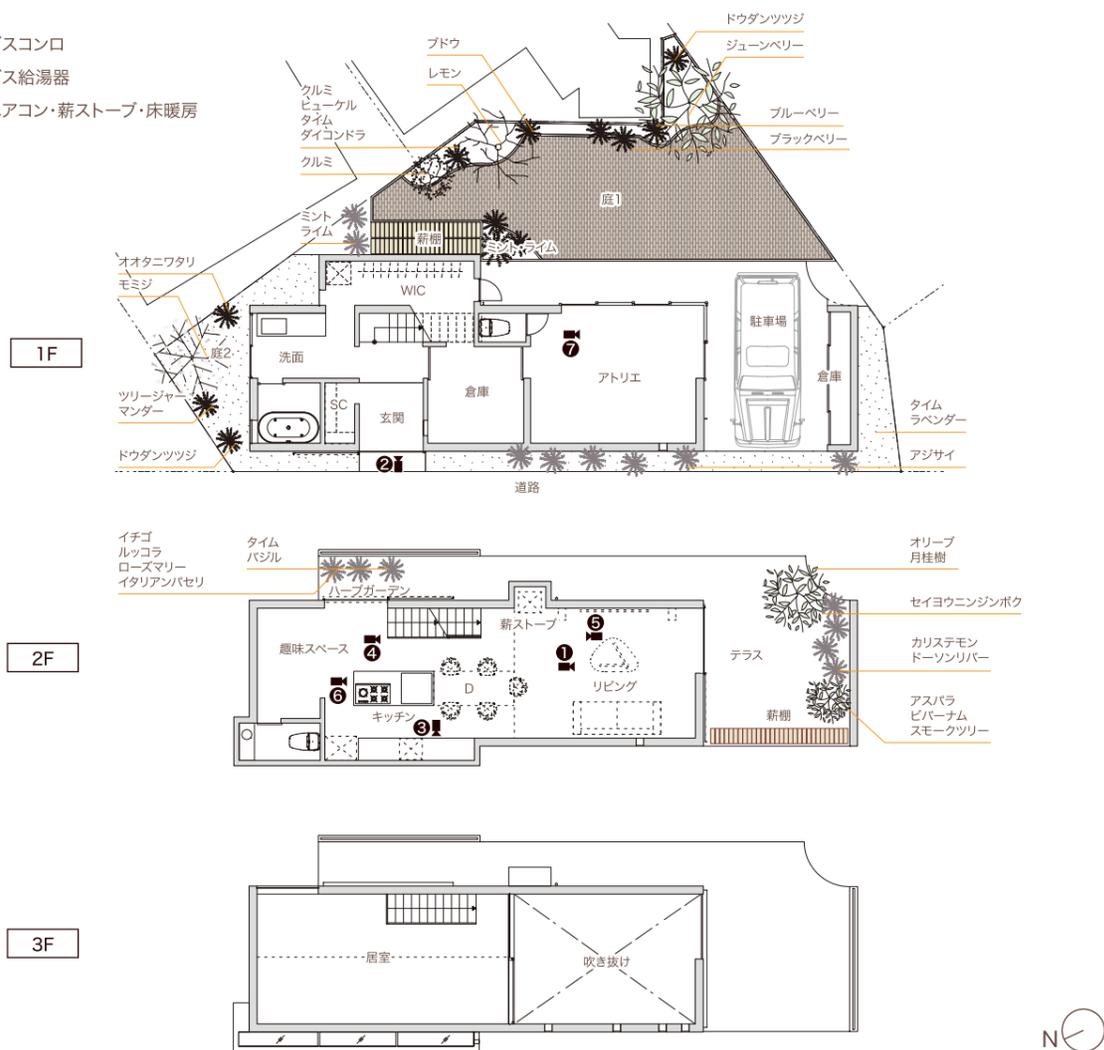
設計	春日琢磨建築設計事務所
施工	有限会社 アルフ
竣工日	2022年1月20日

建物概要	
建設地	広島県広島市
敷地面積	140.10㎡
延床面積	132.81㎡
構造・規模	RC造3階建

設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン・薪ストーブ・床暖房

平面図



設計コンセプト

以前より二間(約3.6m)という距離に心地よさを感じていた。食事をするにも、二間以上離れると遠くて一体感が感じられないし、ソファに座っても二間以上離れるとなんだか間抜けに感じるため二間より広くても結局近づいてしまう。もちろん空間の捉え方は感覚的なものなので個人差があるのだけれど、設計していると二間という寸法は何かと使いやすい。ということで、この住宅兼アトリエでは二間という距離を最大限堪能出来る建築にしようという計画を進めた。二間の間口を基本としてプランが進んでいくと、コンクリート打ち放しの建築はどうしてもパネル割りに引きずられて、なんだかんだと高さ方向もほぼ二間近くの寸法になったり、開口部も二間の半分が決まっていたりと、色々な作り手のルール(モジュールや

構造や法規)で決まってしまうことが多い。一方、実際の暮らしはそれらとは全く関係なく営まれ、好みの家具や日用品が縦横無尽に配置され埋め尽くされる。作り手のルールが強すぎると実際の生活の営みとの間に色々とギャップが生まれて、勝ち負けが感じられるようで窮屈に感じていた。この建築では、作り手のルールと実際の暮らしが溶け合って混ざり合うような状態を目指した。そのため建築的な操作(床壁天井で覆う、開口を穿つ)は主張せず控えめに感じられるよう、可能な限り恣意性を抑えながら単純なルールだけで構成し、かつ周辺環境をうまく取り入れ調和することを必死に考えた。

審査委員講評

コンクリート、鉄、ガラスは自然素材の範疇に入るのか?そんな問いを私たちに突きつける作品です。一方、採光と通風を考慮した間口面積や位置、土地の特性を活かした南北の細長いプランはこの家に暮らす楽しさを保証してくれます。所々にあしらわれた木がアクセントになっていて、コンクリートや鉄のもつ冷たさを緩和しています。



①間口の広い敷地に対して、奥行き二間の建物を目一杯配置。空間を純粋に楽しむためにも柱や梁型は隠し、構造形式は壁式構造とした。各空間の用途に合わせて、高さは構造上の上限階高4mをマックスに決定し配置した。  
②メインの間口にはエキスパンドメタルの網戸を設け、外出する際も施錠した状態で通風を確保。一間幅の引戸は壁面外付けとしているため、完全に引き切ることができ建具の存在が消える。内外をつなげ、暮らしを拡張するための重要なディテールとなっている。



③キッチンバックのトップライトから差し込む光が、奥まったキッチンを明るく照らす。雨上がりには写真のような水滴の影を落とし、生活に彩りを与える。  
④3階から差し込む光が、鉄骨階段を介して下階にも届く。階段上部のスタンドグラスは、テーブル面や床面に色の付いた影を落とし、時間や季節の移り変わりを気づかせてくれる。



⑤ハンターストーブ社の薪ストーブは、3次燃焼システムの採用により、厳格化される欧州連合の環境規制にも対応するクリーン性能を誇る。冬場の暖房は壁面に半埋め込みで設置された薪ストーブをメインに、床暖房を補助として使用している。  
⑥コンクリート造で85cm角の正方形のシンクを設けたキッチン。料理好きな友人たちと釣った魚や、食材を持ち寄り、皆で料理をしながらお酒を楽しんでいる。  
⑦木製建具を壁に引き込むと、屋根のある半外部の駐車場および庇のかかる庭とダイナミックにつながる1階のアトリエ。内外一体となった空間の拡がり住空間をより豊かにする。